

不在地主の父の農地 引き継ぎ新規就農

トウモロコシに注力

クリスタルガラス職人から



深谷市の篠崎さん

【埼玉】深谷市の篠崎祭さん(57)＝写真＝は、不在地主だった父の農地を引き継ぐため、16年前に東京都内から移住して新規就農した。トウモロコシ、ブロッコリーを中心にネギ、水稻を栽培している。

東京生まれの篠崎さんは農業経験はなかったが、「畑の面倒は自分が見ないと」という思いと田舎暮らしへの憧れもあり、クリスタルガラス職人から転職を決意。「県農業大学校で1年間学んだが、一人でやる農作業は想像以上に大変だった」と話す篠崎さん。これまでの努力もあり、耕

作面積は33アまで拡大した。

トウモロコシの品種は「味来」。粒皮が薄いのので柔らかく、際立つ甘さが特徴だ。おいしいトウモロコシを栽培するため、牛糞堆肥をふんだんに施しフカフカの土づくりをするのがこだわり。また、就農時から播種や定植のタイミングと収穫時の品質の出来具合を記録している。記録をもとに異常気象にも対応できるように、毎年栽培管理の改善と品質の向上に努めている。

また、味来の魅力を多くの人に広めたいと加工品にも取り組んでいる。「味来ジェラート」や、篠崎さんが生産した特別栽培米に味来のペーストを練りこんだ「とうもろこしおこげ煎餅」も開発。道の駅や農産物直売所で販売している。米は減農薬・減化学肥料栽培で県の特別栽培農産物の認証を受けた。

美大出身の篠崎さんはロゴマークや商品のオリジナルシールも自分で作成。農産物や加工品の袋

に印刷することで篠崎さんの作った商品だと覚えてくれる消費者も多いという。

就農時には周りの人に助けられたという篠崎さん。5年前から農学部の研修生や一般からの農業体験を受け入れ、農業の楽しさや大切さを伝えている。

今後については「深谷といえばネギとトウモロコシといわれるよう、より一層皆に知ってもらいたい。また、トウモロコシで町おこしに貢献できるように栽培に励んでいきたい」と笑顔で話した。